

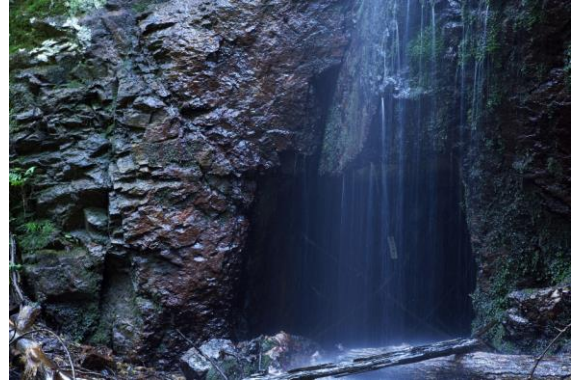
「金を中心とする佐渡鉱山の遺産群」を構成する資産

①～⑦撮影：西山芳一



① 西三川砂金山(虎丸山)

平安時代末(12世紀末)から採取されたと推定される砂金山。虎丸山は西三川砂金山最大の採掘地で、砂金をとるために掘り崩された山の斜面には現在も植物が生えず、赤色の山肌をあらわにしている。



② 鶴子銀山(大滝間歩)

相川金銀山発見のきっかけとなった銀山。露頭掘りから坑道掘りへの移り変わりを示す痕跡が多く見られる。大滝間歩は江戸時代の記録や絵図にも登場する、鶴子銀山を代表する坑道の一つ。



③ 相川金銀山(道遊の割戸)

16世紀末から400年以上にわたり稼働した日本最大の金銀山。各時代の遺跡や鉱山町などがまぎれあって残るのは世界でも例がない。道遊の割戸は佐渡金銀山のシンボルで、江戸時代に稼がれた道遊鉱脈の露頭掘り跡。



⑥ 大間港

1892年に完成した港で、鉱石の運搬や石炭など生産資材の搬入に使われた。現在も石積護岸・トラス橋・ローダー橋脚・クレーン台座が残されている。



④ 相川金銀山(大立堅坑)

1877年に完成した貴金属鉱山では日本初の洋式堅坑。鉱石・人・物資の運搬に使われ、最も深いところは352mまで達している。国内鉱業の近代化を象徴する建造物の一つである。



⑤ 相川金銀山(北沢浮遊選鉱場)

1938年に完成した採取した鉱石をより分け、製錬する設備。その後の拡張により月間5万トンの鉱石の処理が可能となるなど、東洋一の規模を誇った。



⑧ 片辺・鹿野浦海岸石切場跡

江戸時代の鉱山用石磨の下磨の石材切出場で、14か所の採石域、105か所の矢穴跡が確認されている。



⑦ 吹上海岸石切場跡

鉱山用石磨(うす)の上磨の石材切出場で、近世から近代にかけて長期的に採掘が行われ、海岸線の岩場には矢穴跡や鑿跡などが多数残されている。



⑨ 戸地川第二発電所

明治時代以降、鉱山に電力を供給するため、火力発電所が建設された。火力の予備電力を得るため水量の豊富な戸地川に水力発電所が建設された。戸地川第二発電所は1919年に完成し、1977年まで稼働していた。



■佐渡島のアクセス

新潟本土～佐渡島の交通

- 新潟港～両津港 カーフエリーで約2時間30分、ジェットfoilで約65分
- 寺泊港～赤泊港 高速船で約65分
- 直江津港～小木港 高速カーフェリーで約1時間40分(冬季は運休します)

相川金銀山までのアクセス

- 両津港から車で 約30km、移動時間約60分
- 両津港から路線バスで 本線相川行きに乗り、相川まで約60分(季節又は曜日によって金山行きのシャトルバス運行)
- 小木港から車で 約45km、移動時間約1時間20分
- 赤泊港から車で 約60km、移動時間約1時間40分

新潟県教育庁文化行政課世界遺産登録推進室

〒950-8570 新潟県新潟市中央区新光町4-1
E-mail: ngt500080@pref.niigata.lg.jp
TEL+81-(0)25-280-5726
FAX+81-(0)25-280-5764

佐渡市世界遺産推進課

〒952-1209 新潟県佐渡市千種246-1
E-mail: k-goldmine@city.sado.niigata.jp
TEL+81-(0)259-63-5136
FAX+81-(0)259-63-6130